カモンイスの500年

について

カモンイスの500年

ポルトガル - 愛と海が永遠に続く国
有名なポルトガルの詩人ルイス・ヴァス・デ・カモンイスの生誕500年を祝う旅に出かけましょう。伝統と変化が調和して共存するこの国の、時代を超越した精神を発見してください。カモンイスの詩にインスピレーションを与えた愛の激しさと海の広大さを感じてください。

カモンイスと海
ポルトガルは大西洋への玄関口であり、海は陸地そのものと同じくらい生活に大きな役割を果たしています。波のリズム、水平線、潮風、これらがカモンイスの作品にインスピレーションを与えました。ルイス・デ・カモンイスは「ルシアーズ」の中で、リスボンからインドへ向かうポルトガル船の出航を描写していますが、サグレスのように、かつて航海士たちが未知の淵に立っていた場所や、シネスのように、カモンイスの叙事詩の中心人物であり歴史上の人物であるヴァスコ・ダ・ガマの生誕地など、他の海辺の場所でも同じような発見の精神を感じることができます。

船乗りを魅了するだけでなく、ポルトガルは自然や冒険を愛する人々に数え切れないほどの機会を提供しています。ポルトガルの北から南まで、さまざまなホットスポットでサーフィンを楽しんだり、ポルトガルの海岸沿いをセーリングしたりと、すべての旅行者がポルトガルと海の関係を体験することができます。ここでは、海は単なる背景ではありません。海は存在であり、国の歴史で果たした役割を思い出させるものです。

詩人の通り道
文学を愛する人々にとって、ポルトガルは時を超えた旅を提供し、それぞれの町や記念碑には有名な詩人の物語や賛辞が刻まれています。リスボン、カモンイスが住み、そして亡くなった場所は、彼の思い出を探す旅の完璧な出発点です。街の中心部では、ラルゴ・ド・カルハリスにあるカモンイス図書館のような場所があり、彼の遺産を守り続ける文化的コレクションによって詩人の名前を称えています。サンタ・カタリーナ展望台は、喜望峰を擬人化した巨人の彫刻が置かれていることから、アダマストール展望台として知られており、カモンイスが力強く描写した自然の力の象徴です。すぐ近くのルイス・デ・カモンイス広場（魅力的なキアド地区の待ち合わせ場所）には、この詩人に敬意を表す像が建てられており、ポルトガル文学への彼の貢献を不滅のものにしています。

バイシャでは、サント・アンタンのポルタス通りに沿って歩いているときに、カモンイスが逮捕されたパティオ・ド・トロンコの路地を下りてください。この場所は詩人に敬意を表したタイルパネルで標識されています。カルサダ・デ・サンタナを登っていくと、カモンイスが晩年を過ごしたとされる139番の家があります。

ベレン地区へ向かう途中、国立古代美術館を訪れてください。ここには、中世からルネッサンス期の絵画、彫刻、装飾美術など、ポルトガル美術の優れたコレクションが展示されています。カモンイスの叙事詩「ルシアーズ」のシーンを描いた作品にじっくりと浸り、その視覚的表現について理解を深めてください。

ベレンにあるジェロニモス修道院が建築の傑作であり、ポルトガルの海洋発見のシンボルです。マヌエル様式で建てられたこのユネスコ世界遺産は、カモンイスの作品「ルシアーズ」と密接な関係があります。ファサードのディテールをじっくりと鑑賞し、ルイス・デ・カモンイスやヴァスコ・ダ・ガマの墓を含む美しい内部を探索してください。

ジェロニモス修道院のすぐ近くには、かつて街の港の入り口を守っていた象徴的なベレンの塔があります。この場所は、「ルシアーズ」に登場する多くの航海者たちの到着と出発の証人でした。頂上に登ってテージョ川のパノラマを楽しみ、ポルトガルの海洋史の重要性に思いを馳せてください。忘れずにエレベーターに乗って、テージョ川を見下ろす発見の記念碑の頂上まで登ってください。この記念碑はポルトガルの航海時代の重要人物を称えるもので、カモンイスの像もここにあります。

リスボンが詩人の出生地として挙げられることが多いのですが、カモンイスの出生地はシャヴェスであるという説もあります。シャヴェスを通るカモンイス・ルートでは、カモンイス広場、フラウィウス地方博物館（ブラガンサ公爵邸宅内にあり、地元の歴史と詩人がこの地方に残したと思われる遺産を保存しています）、観察と記憶の両方の拠点である古い中世の城の天守閣など、歴史的および文化的に重要ないくつかの場所を訪問者に案内します。この天守閣は、詩人が暮らし、執筆していたであろう歴史的背景に訪問者を連れ戻す場所です。

また、カモンイスはコインブラの、おそらくサンタ・クルス修道院で、当時の偉大な思想家たちとともに学んだと考えられています

2013 ポルトガル観光局 無断転載・転用禁止
info@visitportugal.com

。モンデゴ川のほとりに広がり、大学の精神が息づいているコインブラは、詩人の若い頃を象徴する青春と発見の精神を反映しています。街を歩くと、詩人が文学と思想の第一歩を踏み出した時代に戻ったような気分になります。

カモンイスの記憶は、コンスタンシアのような、彼が住んでいたと言われる町に今も残っています。川沿いの狭い通りを散策していると、詩人の詩にインスピレーションを与えたのと同じ風景や建築物に囲まれ、タイムスリップしたような気分になります。毎年6月10日に開催される「ポモナス・カモニアナス」は、町が詩人に敬意を表する中世のお祭りです。詩人カモンイスの抒情詩や「ルシアーズ」に登場する52種の植物が植えられているカモンイス庭園を訪れてみましょう。

「ルシアーズ」やポルトガルの歴史ファンにとって、アルジュバロッタを訪れれば、カモンイスが称えたポルトガルのヒロイズムの真髄に触れる旅になります。アルジュバロッタ戦い解説センター（CIBA）から出発し、詩人ヌーノ・アルヴァレス・ペレイラを讃える戦場に向かいます。1385年の戦勝を記念して建てられたバタラハ修道院を通り過ぎ、バタラハ博物館を訪れ、歴史的な出来事について理解を深めましょう。アルジュバロッタの中心部では、カモンイスの作品に通底する自由と勇気の精神に共鳴する抵抗の人物、アルジュバロッタのパン屋の伝説に触れることができます。

1580年6月10日は、カモンイスが亡くなった日であり、現在では「ポルトガルの日」、「カモンイスの日」、「ポルトガル共同体の日」として祝われています。

カモンイスの生誕500年を記念して、ポルトガル人としての本質をとらえ、何世紀にもわたって花開いた詩人の遺産をご覧ください。伝統と革新が共存し、詩人の作品があなた自身の発見の旅への出発点となるポルトガルの精神を、本と作家を通して体験してください。

2013 ポルトガル観光局 無断転載・転用禁止
info@visitportugal.com